

2022年(令和4年)6月27日(月) NO 171号

K-PURO NEWS

【事業所】

- ◆ 商号 株式会社 ケイプロ <https://k-puro.co.jp>
- ◆ 屋号 都市防犯プランニング社 mail info@k-puro.co.jp
- ◆ 本社 埼玉県蕨市中央1-7-1 シティタワー蕨 TEL 048-446-9445
- ◆ 千葉支店 千葉県千葉市中央区新町1-20 江澤ビル TEL 043-243-6110

【業務内容】



機械警備 弊社のセキュリティプランに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用



防犯カメラ 周辺環境・建物構造・人的要因を分析し、用途に沿ったカメラ選別と設置
メンテナンス 消防設備点検・消防設備工事の消防関連事業および AED 幹旋の管理業務

【加盟団体】



RID2770 川口モーニングロータリークラブ <https://kawaguchi-morning.jp/>

NPO 法人 さいたま起業家協議会 <https://saitama-kk.org/>

公益社団法人 千葉東法人会 <https://www.chibahojin.jp/>

一般社団法人 千葉市中央区倫理法人会 <https://www.rinri-chiba.org/>

公益財団法人 モラロジー道徳教育財団 <https://www.moralogy.jp/>

【応援団体企業】



今月の言葉

人間関係は心の鏡



家族との間でも、学校や職場でも、良好な人間関係を築くためには相手の長所を認めることが大切ではないでしょうか。相手の欠点ばかりを見つめながら接していると、マイナスの考え方が言動の端々に現れて相手にも伝わり、人間関係がうまくいかなくなります。

人間関係は自分の心のありようを鏡に映したようなものです。

自分に対する相手の態度は、相手に対する自分の心づかいそのものといえるのです。

プラス発想によって築かれる良好な人間関係は、私たちの人生を心豊かなものにしてくれるでしょう

今月の良い話

夢を実現する一流の努力



これは私が打撃投手に区切りをつけ、トレーナーになろうとメンタルトレーニングの勉強をしていた時のことだった。

イチロー選手を掴まえて、メンタルトレーニングについてどのように考えているかと尋ねてみた。

すると彼はひと言、

「メンタルを鍛える、つまり心を鍛えるっていうのは、自分に必要なことを続ける努力をすることじゃないんですか」と答えた。

私はその答えに興味を覚え、さらに質問を続けた。

「これまでに、これだけは絶対誰にも負けていないと胸を張って言える努力って何？」と。

「高校の時に寮に入っていた3年間、僕は寝る前の10分間素振りをしていました。そしてそれを1年365日、3年間欠かさず続けました。それが僕の誰にも負けれないと思える努力です」

この話を聞きながら、私は高校時代に自分がどんな努力をしてきたらどうかと自らに問い掛けた。

「きょうは家に帰ったら300回素振りをしよう」とか「今日はいつもより多く走ってこよう」といった努力はしてきたが、イチロー選手のようにこれだけは絶対にやらなければならないという思いで続けてきたことは何もなかったことに気づかされた。

この話には後日談がある。

つい最近のことだが、私の講演を聞いてくれていたイチロー選手の高校時代の先輩に声を掛けられ、その講演で触れた「10分間の素振り」について話題が及んだ。

「やっぱり本当なんですか」と尋ねると、その答えに私は驚いた。

「10分間の素振りね、あれは最低10分だからね。やり続けると1時間でも2時間でもやっていましたよ」。

イチロー選手は既に高校生の頃には一度自分で決めたことを、決してゼロにはしなかった。そうやって心を鍛えてきた事実には私は新たな衝撃を受けた思いだった。



NHKの特集番組でイチロー選手は次のような趣旨のことを語っている。

「心が折れそうになった時、自分が続けてきたことをやめてしまおうと思ったこともあった。

しかし、もし仮にやめてしまったら自分が自分ではなくなってしまう」

これは彼にとって、いまの自分があるのは、やると決めたことを休むことなく続けてきたからだという認識を強く持っているからに他ならない。彼のたゆまぬ努力の仕方そのものが心の支えとなり、いまを生きる力になっているのだと私は思う。

奥村 幸治 (元イチロー専属打撃投手・少年野球チーム監督)

記事提供 致知出版社

今月の良い話

自ら絵筆を捨てたピカソの父



フランスの劇作家モリエールは、「学ばずしてすべてを知ることが、偉大な芸術家の特徴の一つである」と言っているが、人間の持つ能力は学習によって後天的に習得されるものであり、生まれつきの天才は存在しないと私は考える。

脳の発達する幼い頃に、どのような環境で、どのような情報を得て、どのように感性が育まれるかによって、その人の能力はつくられる。このことは、20世紀最大の画家ピカソの生い立ちからも窺える。ピカソは、言葉を覚える前に絵を覚えたと言われている。

スペインには長い渦巻きの形をしたチュロスというお菓子があるが、幼いピカソは螺旋を描くことでチュロスを食べたいと意思表示した。

最初に口にしたのは鉛筆を意味する「ピス」というスペイン語で、「ピス」と言う度に母親は鉛筆を渡してくれ、ピカソは飽きることなく絵を描き続けた。

学校へ上がってからも、ピカソは絵ばかり描いていた。

教科書の余白は絵で埋め尽くされたが、読み書き計算はまるでできず、アルファベットの順序を覚えることすらできなかった。

ピカソがなぜそこまで絵を描くことに夢中になったかといえば、画家の父親がいつも絵筆を握っているのを見ていたからである。幼い頃の環境がピカソの才能を育んだのである。

彼の家族は、決して絵を描くことを禁じたり、勉強を押しつけたりはしなかった。

父親は、息子ほどの画才があれば必ず将来立派な画家になるだろうと期待を寄せ、母親も、我が子は何をやっても最高の能力を発揮するだろうとその将来を信じて疑わなかった。

一家を挙げてピカソの才能を称賛して止まなかったのである。

ピカソが10歳になると、父親は自分が教師を務める美術学校に我が子を入れ、学校でも自宅でも徹底的に絵の基礎を教え込んだ。生涯に2万点もの作品を描いたピカソだが、実は描いたデッサンの数も膨大であった。

父親のもとで徹底的に基礎を養ったからこそ、ピカソはその才能を大きく開花させることができたのである。そうした父と子の関係は、ピカソが13歳の時に転機を迎える。

ピカソが描いた鳩の絵を見て、我が子が自分の力量を凌駕していることを悟った父は、自分の絵筆を息子に譲り、以来絵を描くことを一切やめてしまったのである。



ピカソが幸せだったのは、同じ絵の道歩んでいた父親が、我が子の才能を素直に認め、いたずらに矯正しなかったことである。教えることばかりが父親の役割ではない。

我が子の素質が開花するよう温かく見守ることも父親の役割であり、愛情の表現であると私は思う。

木原 武一（評論家）

記事提供 致知出版社

事件ファイル NO171

SNS での発信時の注意

ボクシングの世界バンタム級 3 団体統一王者となった井上尚弥 (29 = 大橋) が空き巣被害にあっていたことが分かった。

海外でもアスリートが試合中に空き巣に入られるという事件が頻発している。

アスリートが試合に出る、ましてそれがホームから遠く離れたアウェーなら自宅に不在であることは確実。その隙を狙って、窃盗団が暗躍している。

ヨーロッパのサッカー界でも井上同様の被害にあったとの報告が多数なされている。

元日本代表 DF の内田篤人も現役時代、チャンピオンズリーグの試合中に窓ガラスを割られ、引き出しを全部開けられた上に靴と香川真司のドルトムントのユニホームが盗まれた過去を番組内で告白。(中略)

井上選手のような有名人はもちろん、ちょっとしたお金持ちの家でも、空き巣から不在を狙われている思った方がいい。

ひと昔前だと、葬儀の日取りが新聞に出ると狙われるということが多かったが、今は SNS などで旅行や留守の日が割り出せることもあり、自らこれからの行動等を不用意に情報発信しないことが重要だ。

プロ太の小話集

NO171

『 ウソ発見器 』

父親がウソ発見器を買ってきて、早速試しに息子の指にはめてみた。

父親 「お前は今日学校にちゃんと行ったか？」

息子 「当たり前だよ、父さん」

機械 「ビー、ビッビー」



息子 「ああ、わかったよ。実は友達と酒を呑んでたんだ」

父親 「何だと！父さんはお前くらいの頃はアルコールが何なのかも知らなかったんだぞ。」

機械 「ビー、ビッビー」

母親 「ははは、蛙の子は蛙ね。この子は本当にあなたの子だわ」

機械 「ビー、ビッビー」

////////////////////////////////////

今月の表紙の花 : サクラシバ「家族愛」

今月号は天才と呼ばれるお二人の紹介です。

しかし、始めから天才は存在せず、たゆまぬ努力を毎日確実に積み重ねることのできる人のみが天才の領域に入れることを証明しています。

ゴルフも 10 分の素振りを毎日行えば、年間で 3,650 分、60 時間相当となり、それなりのスコアで回れるようになるかもしれません。

それにはやはり本人の強い意志と家族の愛が必要になるでしょう。

注 : プロ太とは、写真の K-PURO 番犬です (体長 10 メートル・体重 1 トン・無敵無敗)